

(1)

公益財団法人 藤沢市まちづくり協会
シルバー人材センター・生きがい就労センター



第219号



2020年(令和2年)8月発行
(公財)藤沢市まちづくり協会
シルバー人材センター・生きがい就労センター
藤沢市鶴沼神明1丁目3番18号
藤沢市生きがい福祉センター内
電話 0466(27)1100

もやいとは、人と人とを結び付けること(共働・共助)

「シルエット」箱根彫刻の森美術館内で
2人の話し声が聞こえてきそうです。

中野 文俊



健康講座

「免疫と感染症」



藤沢市保健医療センター副所長
健康相談医

姫野 秀朗 先生

新型コロナウイルス感染の出口がまだ見えません。これまでとは違う経過をとる感染症のようです。ヒトの歴史から観ても、SARS-CoV-2との共存を凶らざるを得ません。高リスク者の死亡率の高さから、このウイルスに対する有効なワクチンや効果的な治療法が、できるだけ早い内に開発されることが望まれます。

免疫とは

免疫とは、元来外界からの異物に対する体の自己防衛機構で、自然免疫と獲得免疫があります。自然免疫は、異物にあつてヒトの細胞にはない部分を認識し反応し異物を排除する機能です。これはおそらく産道を通る時に胎児が、生まれてからは母乳に含まれる抗体などをもらい、生まれつきもっていると考えられるものです。獲得免疫は自然免疫を突破してき

(次ページに続く)

(3)

令和元年度 シルバー人材センター 生きがい就労センター 事業の実績

○シルバー人材センター事業

会員数	男性	女性
令和2年3月末	1,981人	495人

	受託件数	請負金額	配分金
令和元年度	6,347件	870,424,186円	588,767,728円

会員の平均年齢（令和2年3月末）74.5歳

・主な活動状況

①雇用による臨時的な就業機会の提供

◆労働者派遣事業の講習会及び研修に参加 ・労働者派遣実績 令和2年3月末時点で16事業所27人を派遣

②講習（安全運転・安全作業・接遇・清掃技能・パソコン・デジカメ等）

③安全・適正就業の推進 ◆現場巡回パトロール（安全啓発チラシ配布等）、安全委員会の開催

④健康相談、講座の開催 ◆健康相談（毎月）、健康講座2回実施

⑤入会説明会、就業相談会の実施

◆入会説明会を毎月開催

187人参加 うち175人入会、就業相談会を毎月開催 338人参加

⑥社会参加活動の推進 ◆清掃ボランティア（片瀬西浜海岸、長後駅東口）

⑦シルバー人材センター運営委員会の開催



片瀬西浜海岸清掃ボランティア

○生きがい就労センター事業

障がい者等の就業機会を確保、提供する事業

会員数	障がい者	女性
令和2年3月末	18人	50人

	受託件数	請負金額	配分金
令和元年度	417件	20,488,942円	16,598,465円

・主な活動状況

①バッグ・小物等の製作 ◆保冷剤の再利用による芳香剤、バッグ、小袋、割烹着、エプロン等

②小物製品等の講習会 ◆夏のスノードーム、トートバックの製作

③普及啓発活動 ◆公民館及びこぶし祭り等にて保冷剤の再利用による芳香剤、バッグ、小袋、割烹着、エプロン等を販売

④体験活動 ◆農作業体験、企業見学



夏のスノードーム作り
(障がい者部門技能講習)

★シルバー人材センター配分金 (職種別に見る割合)

職種	配分金(円)	割合	職種	配分金(円)	割合
駐車場等管理	149,385,031	25.4%	公園管理	31,211,861	5.3%
施設管理	95,037,877	16.1%	襖等張替	5,907,075	1.0%
植木・除草・草刈	94,297,458	16.0%	事務	3,594,035	0.6%
自転車整理	75,805,171	12.9%	その他	1,606,663	0.3%
屋内外清掃	72,497,343	12.3%	合計	588,767,728	100.0%
屋内外軽作業	59,425,214	10.1%			

★生きがい就労センター配分金 (職種別に見る割合)

職種	配分金(円)	割合
屋内外軽作業	14,875,825	89.6%
筆耕	857,422	5.2%
洋裁等	593,471	3.6%
防災ずきん	167,610	1.0%
その他	104,137	0.6%
合計	16,598,465	100.0%



会員による除草作業



パソコン入門講座



こぶし荘にて小物等の販売



障がい者部門による企業見学
(日本理化学工業)

会員の活動紹介

蝉論争

宮村 毅

山形県の立石寺という山寺をご存じの方も多いと思います。私も三度ほど訪れたことがあります。この寺は、松尾芭蕉が参詣した際に詠んだ「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」で有名です。松尾芭蕉が詠んだとされる場所に佇むと、まさにその閑かさや重々しくのしかかってくる様な感じがします。この句の蝉を歌人齋藤茂吉がアブラゼミと断定したことから蝉の種類についてかつて文学論争が起こったんだそうです。この件について議論すべく茂吉をはじめ小宮豊隆ら文人が集まり、小宮は、岩にしみ入るという語はアブラゼミに合わない、また芭蕉がこの寺を訪れた元禄2年5月末は、太陽暦に直すと7月上旬で、アブラゼミはまだ鳴いていないことを理由にニイニイゼミであると主張し、大きく対立したんだそうです。科学的問題も絡んでいたためこの時は決着がつかず持ち越しとなったそうですが、その後茂吉は実地調査などの結果をもとに誤りを認め、芭蕉が詠んだ詩の蝉はニイニイゼミであったと結論付けたんだそうです。

さすが名句は様々な情景を想起させてくれるものですね。さて、このもやい8月号が皆さんのお手

元に届く頃には、我が家の庭の桜の木に今年もアブラゼミの生命の叫びが暑さを増していることだろうと思います。

川柳・五行歌通信

若林 琢磨

歌人森本生雄先生の入選「五行歌」を紹介します。

OB会
 齢だけ
 偉い
 上座に
 馴らされる

(令和二年二月八日付
 「よみうり文芸」より)

☆時代は平安。清少納言、二十八歳の時にビッグチャンスが訪れました。一条天皇のお妃(定子)様の上級宮仕へ(女房と云います)の職に就き、日々、身の回

りのお世話をしていました。ある日、定子様の勧めもあり、常日頃、心の中にある思いを、草紙に書き始めたのです。これが『枕草子』です。今で云うエッセイスト(随筆家)ですね。では、数ある中であまりにも有名なエッセイを。

定子様『少納言や、春夏秋冬に想うことは?』

第一段(全文は割愛させて戴きます)

春は曙。ようよう白くなり行：夏は夜。月のころはさら也：秋は夕暮。夕日のさして山の：冬はつとめて(早朝)。雪の降りたるは：

まだまだ、ライバルと云われていた紫式部や、清少納言と同じ様な人生を歩んだ田口八重さんの事等、お話ししたいのですが又の機会と致します。

なお、当同好会にご参加の方は、左記の森本、若林までご連絡ください

お知らせ

シルバー人材センター・生きがい就業センターの普及啓発と、社会参加活動の推進として、片瀬西浜海岸で清掃ボランティアを行います。会員の皆様やご家族、友人、一般の方のご参加をお待ちしています。

日時

2020年(令和2年)10月3日(土) 午前9時から10時まで。

※小雨程度は実施します(荒天中止)。軍手、ごみ袋は用意します。

場所

片瀬西浜海岸2-20 片瀬西浜海岸

参加ご希望の方は事前にお電話で事務局までご連絡をお願いします。

☎0466-27-1100

なお、新型コロナウイルス感染症の再拡大等により中止になることがあります。ご了承ください。

川柳同好会

句題 『藤沢』

選者 森本 生雄 4310023
 若林 琢磨 8111407

その昔花いっぱい藤の澤 《裕助》 湘南の浅瀬で遊ぶ生しらす 《しんのすけ》
 藤沢は風光明媚日本一 《ゆうすけ》 藤沢に住んで七十五年生き仏《太郎》
 江の島を照らす燈台守り神 《新之助》 涼しさを求めて鯉と引地川《たろう》

五行歌

〈昨年の台風19号体験その2〉
 ようやく特設避難所
 ○○市民センターに着く
 あゝ!! カッパは上だけ
 水も滴るいい女
 すでに人いっぱい
 復興へ 土の 香りを 確かめる
 ボランティア 生雄

(皆様からの旅行記等記事を募集中です!!)